

栃木県埋蔵文化財 センターだより

C O N T E N T S

2008
12月
やま
まいど

発行 平成20年12月15日
栃木県教育委員会
宇都宮市埴田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>



- 発掘調査レポート
 - ・市町教育委員会が実施した発掘調査から
機神山山頂古墳(足利市)・下西原遺跡(宇都宮市)・鹿沼城跡(鹿沼市)・
落内遺跡(下野市)・市ノ塚遺跡(二宮町)・寺野東遺跡(小山市)・
唐沢山城跡隼人屋敷跡(佐野市)
 - ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から 長沼城跡(二宮町)
- 小・中学生のための考古学教室(足利市教育委員会)
- 特集 馬形埴輪と馬具
- 県民の日協賛事業(埋蔵文化財センター公開と発掘調査報告会)
- 「宇都宮インターパーク」 昔々、そのむかし 一東谷・中島遺跡群発掘調査展のお知らせ

発掘調査レポート 市町教育委員会が実施した発掘調査から

①機神山山頂古墳 山の頂上につくられた前方後円墳(足利市)

機神山山頂古墳は、足利市街地の北西、織姫神社のある機神山の山頂(標高約118m)に所在する前方後円墳で、昭和53年に足利市の史跡に指定されています。機神山から両崖山にかけての尾根上及び斜面には26基の古墳が存在し、機神山古墳群と呼ばれています。明治26年に行われた機神山山頂古墳の調査では、六鈴鏡をはじめとした貴重な副葬品や人物埴輪などが出土しています。

今回のトレンチ調査の結果、墳丘の規模や形状は、全長36m以上、高さ4m以上、2段築成の前方後円墳で、2段目の斜面に葺石をもつことがわかりました。葺石はいずれもチャートの割石を使用しており、葺石の傾斜角度は45～60度と急であることがわかりました。両くびれ部を中心に各トレンチからは円筒埴輪、形象埴輪(馬・太刀・靱・盾・翳等)が出土しています。また、北側くびれ部テラスから円筒埴輪3基(以上)が南北に並んで据えられた状態で出土しました。本古墳は、古墳の形状や出土遺物等から、古墳時代後期の6世紀後半に造られた古墳と考えられます。

(足利市教育委員会文化課 0284-20-2230)



機神山山頂古墳(北から)



古墳の垂直写真

②下西原遺跡 縄文中期・古墳後期の集落跡を発見（宇都宮市）

下西原遺跡は、宇都宮市の南東部、鬼怒川の左岸に南北に続く台地上に位置しています。市道改良工事に先立つ今回の調査では、縄文時代中期及び古墳時代後期の集落跡が複合して存在していることが確認されました。

縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡 11 軒、土坑は 80 基以上が確認されました。住居跡は直径 4～5 m の円形で、打製石斧・磨製石斧が出土しています。また、土坑の半数は貯蔵のための「袋状土坑」と呼ばれるもので、ほぼ復元可能な縄文土器も数点出土しました。復元された縄文土器には、高さ 60cm ほどの大きなものもあります。その他にも、石皿・蜂巣石・磨石・石鏃・土製耳環といった遺物も出土しました。また、古墳時代後期の竪穴住居は一辺 9 m 前後の大きな住居が 5 軒、一辺 4 m 程の小さな住居が 2 軒確認されました。7 軒のうち 6 軒は住居の北側に、1 軒は東側にカマドをもっていました。遺物は土師器や須恵器の坏などの他、石製紡錘車、土製の勾玉や管玉も出土しています。

（宇都宮市教育委員会文化課 028-632-2764）



袋状土坑



袋状土坑出土の縄文土器



古墳時代後期の竪穴住居跡

③鹿沼城跡 中世城郭の堀を確認（鹿沼市）

鹿沼城跡は鹿沼市役所西側の丘陵縁辺に展開する、戦国末期の壬生氏の居城です。鹿沼城は、戦乱時に立てこもる城（主郭）とそれを取り囲む複数の郭、また日常生活をする館などで構成される一城別郭の平山城です。

発掘調査は市立中央小学校の校舎改築に伴うもので、平成 20 年 3 月から実施しています。小学校の敷地は、古くから「御殿場」とよばれ、戦国期には壬生氏の館、近世においては陣屋があったとされていますが、記録は少なく詳細は不明です。今回の調査では城に伴う堀跡のほか、縄文時代～近代の遺構・遺物が確認されています。

堀跡は東西方向へ延び、東西端で直角に近い角度で北に折れており、郭の南辺を構成するものと考えられます。規模は、東西方向の長さ 54 m (30 間)、最大幅 5.4 m、深さ 2.5 m、その断面形は逆台形です。堀の堆積土には、ロームや鹿沼軽石のブロックが多量に含まれており、堀に並行して土塁が存在していたことが考えられます。堆積土の中からは、大量のかわらけ（土師質土器）をはじめ、内耳土器や陶磁器、古銭などが出土しています。

絵図等にも記載がみられない本堀跡は、鹿沼城の構造を知る上で、重要な遺構といえます。

（鹿沼市教育委員会社会教育課 0289-62-1172）



堀跡調査状況（東から）



堀跡出土のかわらけ

④^{おうち}落内遺跡 幼稚園の庭に古代の集落（下野市）

落内遺跡は、過去に下野薬師寺跡の史跡整備に伴い調査され、この時に発見された遺構は、現在の歴史館の下に埋め戻されて保存されています。

今回の調査は、同じ落内遺跡でも前回より南の地点の調査で、幼稚園の園舎建替え工事により発見されました。調査された竪穴建物（住居）跡 31 軒、ほかに井戸跡も 2 基発見されました。

遺構の多くは、重なり合って発見されています。これは、同じ土地に何回も何回も住んだことをあらわしています。出土した土器から古墳時代の終わり頃から薬師寺のできる頃と薬師寺が衰退しだした頃に多くの人が住んだことがわかります。今回の調査で8世紀後半の竪穴住居跡から埴（せん）が出土しました。恐らくカマドの構築材に転用されて捨てられたものですが、元は薬師寺の金堂や塔などの床や須弥壇に使われたと考えられるレンガのようなものです。これまでの長い薬師寺の調査でも1点しか出土しておりません。薬師寺のどの建物に使われたものなのでしょう？この他では古代の役所である下野国府で出土しているだけです。

（下野市教育委員会文化課 0285-52-1120）



調査区中央部（北東から）



竪穴住居跡の状況（南西から）

⑤^{いちのづか}市ノ塚遺跡 大集落のゴミ捨て場（二宮町）

市ノ塚遺跡は、平成 15・16 年度に県営圃場整備事業に先だって発掘調査が行われ、大規模な古墳時代の集落跡や中近世の墓域が見つかっています。今回、これに西接する町道の改修工事に伴って発掘調査を行いました。調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居 4 軒、古墳時代後期の竪穴住居 4 軒、中近世の溝 2 条などが見つかっています。

このうち NS-8 とした竪穴住居は古墳時代前期の住居ですが、住居として使われなくなった後、竪穴の凹みがゴミ捨て場として利用されていることがわかりました。竪穴内からは大量の遺物が出土していますが、住居の床面から出土している遺物はなく、また接合して完全な形になる遺物もありません。甕の底部だけで 21 個体分、台付き甕の台部だけで 13 個体分、高坏及び器台の柱状部だけで 8 個体分に及ぶ大量の土器が出土しています。これらの出土遺物は、住居を半分埋め戻した段階で周囲から捨てられたものです。長期間続いた集落では、このように使わなくなった竪穴住居をゴミ捨て場とすることがあったようです。

（二宮町教育委員会文化振興課 0285-74-3373）



発掘調査のようす



土器の出土状態

⑥寺野東遺跡 南側に連続する集落を確認（小山市）

寺野東遺跡は小山市東部の絹地区、鬼怒川水系の田川西岸の台地上、標高約 43 m に位置します。平成 2 年度から 6 年度にかけて行われた県・市合同の発掘調査によって旧石器時代から平安時代までの複合遺跡であることが確認され、調査の成果を受けて平成 7 年には国の史跡として指定されました。小山市教育委員会は、平成 20 年 4 月より前回調査区から南側に連続する部分（旧・梁山公園）で、小山東部地区工業用地造成に伴って、発掘調査を実施しています。

今回の調査では竪穴住居跡が 28 軒の他、土坑は 150 基以上が確認されており、調査区東部の斜面部より調査を進めています。東側では古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡をはじめ、縄文時代の土坑や、古代の溝、井戸などが確認されています。代表的な遺構としては、復元可能な土器が複数出土した縄文時代後期・晩期の土坑や、調査区を南北に分断するかのような溝などがあります。これらの遺構は寺野東遺跡の性格を考えるための良好な資料の 1 つになると思われます。今後、平成 20 年 12 月までの予定で調査を実施しますが、西部の台地部では遺構や遺物の様相などから、前回の調査でも確認された縄文時代中期、古墳時代前期の集落が展開していることが確認されています。（小山市教育委員会文化振興課 0285-22-9669）



調査区全景



SK149 遺物出土状態

⑦唐沢山城跡 隼人屋敷跡 石列とかわらけが出土（佐野市）

唐沢山城跡は、栃木県南西部に位置する標高 240m 余の唐沢山山頂部に本丸跡があります。本丸跡の周辺には、戦国時代末期の高石垣が良好な状態で残っており、東日本では大変貴重な城跡といえます。その城域は、東西 1.5 km・南北 2 km に及ぶ広大なものでした。現在は、うっそうと茂る樹木に痕跡のほとんどが覆い隠されていますが、当時は、さぞかし壮観な山城が築かれていたことでしょう。

平成 19 年度から、本市で初めての国指定史跡を目指し調査を開始しました。そして本年度は、国庫補助事業として本格的な作業に着手しています。唐沢山の西麓に広がる根小屋地域は、和泉屋敷、家中屋敷、御台所などの呼び名で伝えられてきた地区が点在しており、遺構確認調査でも大変重視している一帯です。今回調査を進めているのは、これらのうち隼人屋敷と呼ばれる地区です。隼人屋敷は、東西 75m・南北 100m ほどの長方形で、周囲には堀を廻らせています。これまでのところ、調査によって、石列や石積みの一部が検出された他、かわらけや陶磁器・漆製品などが出土しています。石列は、建物などの施設に係るものと考えられ、石積みは、郭の一端もしくは周囲に施されていたものと推測されます。

（佐野市教育委員会生涯学習課 0283-86-3495）



調査地区と検出された石列



かわらけの出土状況

ながめまじょうあと

⑧長沼城跡「殿！水攻めでござーる!!」（二宮町）

長沼城跡は、二宮町の西の端、鬼怒川に近い長沼に位置しています。鎌倉時代、小山氏は関東でも有力な豪族でした。鎌倉時代の初めに小山氏から結城氏、長沼氏が分家しましたが、その長沼氏の根拠地が、長沼城です。長沼氏は、小山氏や結城氏とともに鎌倉幕府の下で活躍した有名な豪族ですが、居城の長沼城については、詳しいことはわかりませんでした。今回、城跡と伝えられる場所の近くを県道が通ることになり、発掘調査を行っています。その結果、幅の広い溝などが発見されました。これは、城の北側の堀跡ではないかと思われ、現在、内部にたまった土を掘り出しています。今までに、鎌倉時代ごろの「かわらけ」と呼ばれる素焼きの皿や盃などが出土しています。城のあるところは鬼怒川に比較的近く、地面を掘るとすぐに地下水が出てきます。このため、敵が攻めてきても、足下がドロドロで、滑ったり転んだり、大変に攻めづらい城だったわけです。ですから、発掘する方にとっても、たまりません。7・8月は雨が多かったので、発掘現場がしばしば水堀のように水没してしまいました。「殿！水攻めでござーる!!」、貴重な体験のできた夏でした。

（埋蔵文化財センター 0285-44-8441）



水没した遺跡



調査風景

小・中学生のための考古学教室

足利市教育委員会

平成 18 年度から夏休み期間中に開催しています。昨年度から埋蔵文化財保存活用整備事業（国庫補助事業）の一環で、今年度は足利市内の小学 4 年生～中学 1 年生・30 人が参加、7 月 29 日から 8 月 1 日の 4 日間にわたり実施しました。1 日目は足利市文化財専門委員・市橋さんによる考古学についての講義の後、足利公園古墳の測量をしました。グループごとに古墳の大きさや石室の形などを観察しまとめました。2 日目は埋蔵文化財センターの篠原さんに勾玉作りを教えていただきながら実際に作ってみました。がんばって磨いた勾玉は子供たちの胸元でピカピカに光っていました。3 日目は足利市内から出土した色々な土器片を観察し、グループごとに発表しました。土器の拓本も取り、観察カードを作りました。4 日目は埋蔵文化財センターの見学と縄文土器作りで、普段は見られないセンターの裏側をわくわくしながら見学しました。土器作りでは埋蔵文化財センターの田代さんと植木さんに教えてもらいながら本物の 5 分の 1 の大きさの土器を作りました。子供たちは目を輝かせながらとても熱心に 4 日間のプログラムに取り組んでいました。

（足利市教育委員会文化課 0284-20-2230）



古墳測量の様子



土器作りの様子

特集 馬形埴輪と馬具

「ハニワ」といえば、
します。古墳時代の

ります。栃木県でも、多くの馬形の埴輪が発見されていますが、平成 16 年に下野市の甲塚古
2 体が下の写真です。甲塚古墳は墳丘の長さ 85 m の大型前方後円墳で、当時の下野地域を
いました。現代でいえば重要人物が乗る超高級なリムジンカーのようなものでしょう。埴輪と、

鞍(くら)

ここに人が座ります。人の体が安定するよ
うに、鞍の前と後には丸い板が取り付けられ
ています。鞍は木製で、飾りを兼ねた様々な
金具が取り付けられます。鞍は革のベルトで
馬に装着しました。

また、甲塚古墳の馬形埴輪1では、鞍の右
側に「短冊形水平板」と呼ばれる板が取り付
けられています。当時は、馬に跨る乗り方と、
横座りする乗り方があったとされますが、こ
の板は、横座りした時に足をそろえてのせる
ための台と考えられています。

轡(くつわ)

馬をあやつるときは、主に手綱を使います。手綱を引くと馬が止まります。また、手
綱を右に引けば右に、左に引けば左に進みます。この手綱とつながっているのが轡です。
だから、人間の命令を馬に伝えるための重要な馬具が轡なのです。轡は馬がくわえる銜
(はみ)、手綱を結びつける引手(ひつて)、それらを馬の顔に取り付けた革ベルトと連結
する鏡板(かがみいた) などからできています。

手綱(たづな)

短冊形水平板 (たんざくがたすいへいばん)

障泥(あおり)

鐙(あぶみ)

馬に登り降りする時に足を架
けたり、馬の上で姿勢を安定さ
せたりするための馬具です。馬
形埴輪1の鐙は円錐形で、横に
穴があいている「壺鐙(つぼあ
ぶみ)」、馬形埴輪2の鐙は電
車のつり革のような形をした「輪
鐙(わあぶみ)」です。



4 馬の頭のような
上塩冶築山古墳(島根県出雲
市)の復元品

馬鐙(ばたく)



5 星の宮神社古墳(下野市)の馬鐙

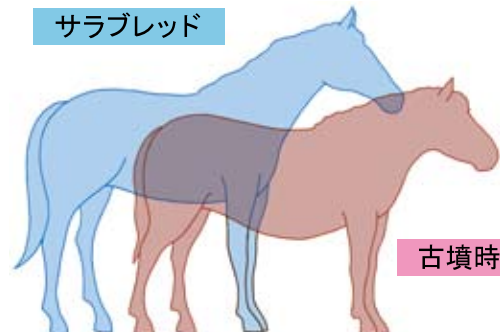
銅鐙のような形をし、胸や尾に
かけたベルトからつり下げました。
揺れると、きれいな音で鳴ります。
星の宮神社古墳からは完全な形の
馬鐙が3点出土しました。

甲塚古墳の馬形埴輪1

古墳時代の馬は、中国大陆から朝鮮半島を経由
して九州に導入されたと考えられています。当時の
馬は、現在のサラブレッドに比べると小形でした。

馬を活用するためには、生産、育成、管理、調教
などの知識が必要で、馬をあやつる騎乗技術も必
要です。こうした知識や技術は、馬と共に大陸から
渡来したものと考えられます。

サラブレッド



古墳時

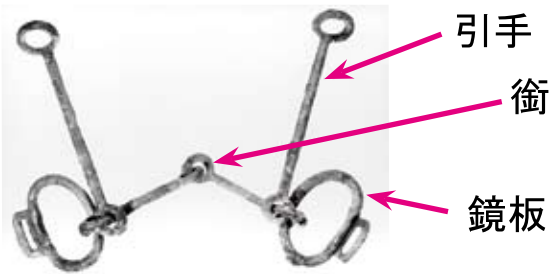


7 西赤堀遺跡(上三川町)の壺鐙の鎖

西赤堀遺跡5号墳から出土した、壺
鐙をつり下げる鎖と、鐙に取り付けた金
具です。鐙は木製なので残っていません。

まず馬形埴輪を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。今回は馬形埴輪についてお話後半（今からおよそ1,500年前）になると、日本各地の古墳で馬形埴輪が立てられるようになります。そのうちの4体の馬形埴輪は、特に大型（高さ1.1m）で、立派なものでした。そのうちの支配した人の墓と考えられています。墓の主が乗った馬は様々な馬具できらびやかに飾られて出土した馬具から、当時の様子を想像してみましょう。

雲珠(うず)・辻金具(つじかなぐ)



1 トトコチ山古墳(佐野市)の轡



雲珠

2 塚原古墳(宇都宮市)の雲珠と辻金具

辻金具



3 馬のお尻を上からみたところ
上塩冶築山古墳(島根県出雲市)の復元品(中央の金具が雲珠、周囲の金具は辻金具)

鞍や轡は、革帯(ベルト)で馬に装着します。革帯の交差するところは、辻金具で留められました。また、馬の腰の上では、鞍を固定するベルトが何本も交差するので、大きい辻金具が必要になります。これを雲珠といいます。雲珠や辻金具は金メッキなどを施され、実用以上に装飾性の高いものになっています。



馬にまたがる大首長

8 上塩冶築山古墳(島根県出雲市)の復元品



6 門前1号墳(足利市)の馬鈴

馬形埴輪2には胸に鈴がつけられています。

甲塚古墳の馬形埴輪 2

障泥(あおり)

鞍の両側につり下げる馬具で、泥よけと考えられます。革などで作られているので、土中で腐ってしまいましたが、縁取りの金具や、吊り金具などが残っていることがあります。その形や取り付け方は、埴輪からわかります。馬形埴輪1には障泥がよく表現されています。

■ 県民の日協賛事業（埋蔵文化財センター公開と発掘調査報告会）

栃木県が実施する、県民の日（6月15日）の協賛事業として2つの事業を実施いたしました。

埋蔵文化財センター公開 平成20年6月13日（金）

センターでは、発掘調査された土器や石器などの遺物や図面・写真などの記録類を整理する仕事、そうした記録を発掘調査報告書としてまとめる仕事、記録類や土器・石器を保管して活用する仕事などを行っています。今回はセンターを見学することにより、少しでも遺跡・遺物を身近に感じていただきたいと思います。遺物収蔵庫では、実物の土器に触れていただき、整理室では土器の実測図作成などを見学していただきました。また、拓本教室、縄文施文体験、土器パズル、写真パズルなどの体験も楽しんでいただきました。

発掘調査報告会 平成20年6月14日（土）

埋文センター公開日の翌日に実施いたしました。平成19年度に埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した遺跡のうち、森後遺跡（さくら市）、吾妻古墳（栃木市・壬生町）、小鍋前遺跡（那須烏山市）、青龍淵遺跡・皇宮前塚（鹿沼市）、千駄塚浅間遺跡・栗宮宮内遺跡（小山市）、下陰遺跡（真岡市）の調査成果についてわかりやすく解説しました。終了後、栃木県立しもつけ風土記の丘資料館に移動し、開催中の「春期特別展 栃木の遺跡」の展示解説を実施しました。この2日間の事業には計119名の方が参加されました。平成21年度も実施予定ですので、ご参加くださるようお願いいたします。



埋蔵文化財センター公開日（写真パズル）



発掘調査報告会

開催のお知らせ

「宇都宮インターパーク」昔々、そのむかし - 東谷・中島遺跡群発掘調査展 -

「宇都宮インターパーク」の下には、今から1,000年以上前の古墳時代から平安時代を中心とした遺跡があったことが、発掘調査でわかりました。

そこで、竪穴住居跡や古墳から出土した土器や埴輪などの遺物約500点を展示いたします。

会場：FKD 宇都宮インターパーク店 2階大催事会場
会期：平成21年1月9日（金）～12日（月・祝）
開催時間：午前10:00～午後8:00（最終日は午後5:00まで）
入場は無料です。

お問い合わせ：財団法人 とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
〒329-0418 下野市紫 474 TEL 0285-44-8441

体験

- ・縄文時代から平安時代の“本物の土器”を持ってみよう。
- ・復元した古代の衣装を着て、復元された竪穴住居をバックに記念撮影をしよう。
- ・勾玉（古代のネックレス）を作ってみよう（1日50人限り）。

みんな来てね!!



ことひらづかこふんぐん
琴平塚古墳群

第6号墳出土 女子埴輪

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441